|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| １目標・内容の取扱い | 外国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。○　言語や文化に対する理解や実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能について○　目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことについて　○　主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ることについて |
| ２人 権 の取 扱 い | 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。○　人権への配慮について○　国際理解を深め、国際協調の精神を養うことについて○　ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| ３内容の程度 | 児童の発達段階を考慮した内容になっているか。○　興味・関心のある題材について○　新出言語材料（語・連語や文構造など）の分量や提示の仕方について |
| ４組織・配列 | 目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。○　「聞くこと」「話すこと」を中心に「読むこと」「書くこと」に取り組むなど、児童の意欲を高める構成について○　言語の使用場面や言語の働きについて |
| ５創意工夫 | 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。○　ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について○　外国語活動の学習内容の取り扱われ方について |
| ６補充的な学　習・発展的な学　習． | 学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを実際のコミュニケーションに活用することができるよう配慮されているか。○　資料・活動例など○　中学校への接続を意識した内容など |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| １目標・内容の取扱い | 外国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。○　言語や文化に対する理解や実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能について○　目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことについて　○　主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ることについて |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東　書 | ○　世界の国々や世界と日本のつながりを紹介する中で、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、各単元で学習する言語材料について、音声から文字への流れが意識されており、基礎的な技能が身につく内容となっている。○　目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「Enjoy Communication」は、学習した表現を使って、コミュニケーション活動を行う内容となっている。○　コミュニケーションの基礎について学び、相手意識をもちながら、主体的に活動に取り組める内容が取りあげられている。「Check Your Steps」は、既習事項を組み合わせ、主体的に活動できる内容となっている。 |
| 開隆堂 | ○　世界の国々の文化や人物などを紹介する中で、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、各単元でターゲットになる英語表現を使った活動をくり返し、基礎的な技能が身につく内容となっている。○　目的や場面、状況などに応じて、英語を自然に使うことができる内容が取りあげられている。「Let’s Try」は、学習した表現を使って活動する内容となっている。○　主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「Project」は、既習事項を活用し、主体的に活動できる内容となっている。 |
| 学　図 | ○　いろいろな国の文化や風習を紹介する中で、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、音声によるインプットやアウトプットをくり返しながら、基礎的な技能が身につく内容となっている。○　目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「話すこと（やりとり）」は、１対１でやりとりをし、表現する内容となっている。○　主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「Project Time」は、既習事項を使って、主体的に活動できる内容となっている。 |
| 三省堂 | ○　世界のくらしや風習などを紹介する中で、英語と日本語の違いなどから、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、インプットの後に自分のことを表現するアウトプットを段階的に増やし、基礎的な技能が身につく内容となっている。○　目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「話す活動（やりとり）」は、学習した表現を使って友だちとやりとりを行う内容となっている。○　実世界の英語や実際の会話を紹介するなど、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「JUMP」では、経験した表現や語彙などを活用して、主体的に活動できる内容となっている。 |
| 教　出 | ○　さまざまな国の学校生活や風習などを紹介する中で、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、各単元で学習する言語材料について、聞く活動を通して理解したうえで基本的なやり取りの活動が扱われており、基礎的な技能が身につく内容となっている。○　目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「Activity」は、学習した表現を使って活動する内容となっている。○　主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「Final Activity」は、自己表現の意欲を高める場面や状況が設定され、主体的に活動できる内容となっている。 |
| 光　村 | ○　世界の子どもたちを紹介する中で、自分との共通点や相違点などから言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、全単元で、学習する言語材料を映像や音声、チャンツなど様々な活動で繰り返し練習し、基礎的な技能が身につく内容となっている。○　目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「Let’s try.」は、学習した表現を使って活動する内容となっている。○　主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「You can do it!」は、学習した表現を活用して、主体的に活動できる内容となっている。 |
| 啓林館 | ○　外国の様々な話題を紹介する中で、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、各単元で学習する語彙や表現を使った活動をくり返し、基礎的な技能が身につく内容となっている。○　目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「Activity」は、学習した表現を使って活動する内容となっている。○　主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「REVIEW」では、４技能５領域を統合する活動が設定され、主体的に活動できる内容となっている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| ２人 権 の取 扱 い | 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。○　人権への配慮について○　国際理解を深め、国際協調の精神を養うことについて○　ユニバーサルデザインに関する配慮について |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東　書 | ○　教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。○　国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、世界の授業や、多言語で表示した標識など、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。○　文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、フォントや、４線ノートの幅や線種・基線の色使いなど、配慮されている。 |
| 開隆堂 | ○　教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。○　国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、「ツアープランナーになろう」「世界の衣食住を知ろう」など、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。○　文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、識別しづらい色使いを避けることや、文字の大きさを極力大きくすること、児童の記入欄に罫線を用いることなど、配慮されている。 |
| 学　図 | ○　教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。○　国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、単元の終わりの「Column」では、世界各国の風習などについての話題が提示されるなど、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。○　文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、フォント、カラーユニバーサルデザインなど、配慮されている。 |
| 三省堂 | ○　教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。○　国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、「世界のあいさつ」「世界のまちかど」「世界の小学校」など、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。○　文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、識別しにくい配色を避けること、フォント、形や記号・番号、４線の幅を十分取ることなど、配慮されている。 |
| 教　出 | ○　教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。○　国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、「Let’s Look at the World」では、海外の学校、アメリカの手話、外来語など、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。○　文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、フォントなど、配慮されている。 |
| 光　村 | ○　教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。○　国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、「世界の友だち」では、世界各国で実際に生活する小学生の考えや暮らしを紹介するなど、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。○　文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、児童が学習しやすい４線の幅に対応したフォント、文字の大きさ、大判のイラスト、当該学年配当漢字への振り仮名など、配慮されている。 |
| 啓林館 | ○　教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。○　国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、各単元にある「Did you know?」では、世界各国の風習などについての話題が提示されるなど、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。○　文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、フォント、やさしい色使いでシンプルなデザインなど、配慮されている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| ３内容の程度 | 児童の発達段階を考慮した内容になっているか。○　興味・関心のある題材について○　新出言語材料（語・連語や文構造など）の分量や提示の仕方について |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東　書 | ○　児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、５年では、自己紹介、誕生日、身近な人、地域の地図、四季や文化、世界で活躍する人などについての題材を、６年では自己紹介、行ってみたい国、世界の夏休み、地球に暮らす生物、小学校での思い出、中学校生活などについての題材が取り扱われている。○　新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、５年で「Nice to meet you.」「How do you spell your name?」「What sport do you like?」など、６年で「Where are you from?」「When is your birthday?」などの表現を扱っている。単語は、スポーツ名、食べ物名、楽器名、国名などが、教科書別冊のPicture Dictionaryとリンクしており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。 |
| 開隆堂 | ○　児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、５年では、自己紹介、誕生日、道案内、憧れの人、世界の正月、自分の町などについて、６年では、自己紹介、世界の国々、日本の紹介、世界の衣食住、小学校の思い出、中学校生活などについての題材が取り扱われている。○　新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、５年で「Nice to meet you.」「I like ～.」など、６年で「Do you like ～?」「We are friends.」などの表現を扱っている。単語は、スポーツ名、楽器名、数字、アルファベットなどが扱われており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。 |
| 学　図 | ○　児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、５年では、自己紹介、教科・習い事、位置・道案内、誕生日・ほしいもの、食べ物の注文、あこがれの人などについて、６年では、自己紹介、好きな食べ物、日本の祭り、自分たちの町・地域、小学校の思い出、中学校生活などについての題材が取り扱われている。○　新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、５年で「I like ～.」「I have ～.」「Do you have ～?」「What sport do you like?」など、６年で「I’m from ～.」「I can ～.」「I’m good at ～.」などの表現を扱っている。単語は、教科名、持ち物名、スポーツ名、国名などが扱われており、リスニングやチャンツ、アクティビティの中で取りあげられている。 |
| 三省堂 | ○　児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、５年では、自己紹介、友だちや先生の紹介、一日の生活、日本の文化、位置と場所、世界の国々などについて、６年では、友だちや家族の紹介、行事や文化、学校紹介、夏休みの思い出、６年間の思い出、将来の夢などについての題材が取り扱われている。○　新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、５年で「Hello.」「I like ～.」「I don’t like ～.」「My birthday is ～.」など、６年で「Do you like ～?」「We are from ～.」などの表現を扱っている。単語は、スポーツ名、楽器名、食べ物名、月の名前などが扱われており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。 |
| 教　出 | ○　児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、５年では、自己紹介、誕生日、時間割・教科、一日の生活、都道府県、建物・道案内、得意なことなどについて、６年では、自己紹介、日本の文化、夏休みの思い出、世界の国々、スポーツ選手、中学校生活などについての題材が取り扱われている。○　新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、５年で「Nice to meet you.」「Hello.」や「My name is ～.」「I like ～.」「I want ～.」「Thank you.」「How do you spell your name?」など、６年で「What sport do you like?」「My birthday is ～.」「I can ～.」などの表現を扱っている。単語は、スポーツ名、動物名、楽器名、教科名などが扱われており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。 |
| 光　村 | ○　児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、５年では、自己紹介、誕生日、教科・時間割、世界の国々、料理の注文、憧れの人などについて、６年では、自己紹介、日本の文化、夏休みの思い出、世界で活躍する人、小学校の思い出、中学校生活などについての題材が取り扱われている。○　新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、５年で「I like ～.」「How do you spell it?」など、６年で「I’m from ～.」「I’m good at ～.」などの表現を扱っている。単語は、果物名、スポーツ名、動物名、国名などが扱われており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。 |
| 啓林館 | ○　児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、５年では、自己紹介、学校生活・教科、一日の生活、身近な人の紹介、行きたい国、料理・金額などについて、６年では、自己紹介、日本の紹介、夏休みの思い出、小学校の思い出、将来の夢・職業、中学校生活などについての題材が取り扱われている。○　新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、５年で「Hi, I’m ～.」や「I like ～.」「Nice to meet you.」「How do you spell your name?」など、６年で「I can ～.」「I’m from ～.」「I’m good at ～.」「My birthday is ～.」「My favorite subject is ～.」などの表現を扱っている。単語は、食べ物名、動物名、スポーツ名、国名などが扱われており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| ４組織・配列 | 目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。○　「聞くこと」「話すこと」を中心に「読むこと」「書くこと」に取り組むなど、児童の意欲を高める構成について○　言語の使用場面や言語の働きについて |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東　書 | 目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、短時間学習での扱いも例示されている。○　「Starting Out」「Your Turn」「Enjoy Communication」「Over the Horizon」という構成になっており、「聞く」活動をはじめに多く取りあげ、その後に「話す（やり取り・発表）」、「読む・書く」という活動を取りあげている。「出会う」「慣れる」「楽しむ」「広げる」と流れが示されており、児童の意欲を高める構成になっている。○　言語の使用場面は、自己紹介、道案内、料理の注文、日本の紹介、おすすめの国紹介、夏休みの思い出発表、食物連鎖についての発表、小学校の思い出紹介など、身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| 開隆堂 | 目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。○　「Let’s Listen」で聞く活動、「Let’s Play」で基本的なやり取りを行い、「Let’s Read and Write」「Let’s Try」で発表や発展的なやり取りとともに、教科書の後ろの「文字に慣れよう」でくり返し「書く」という内容で構成されており、児童の意欲を高める構成になっている。○　言語の使用場面は、自己紹介、道案内、憧れの人紹介、おすすめの国紹介、日本の紹介、夏休みの思い出発表、小学校の思い出紹介、将来の夢の発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| 学　図 | 目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、短時間学習での扱いも例示されている。○　音声によるインプットと繰り返しにより４技能が習得できるよう取り扱われている。「読む」「書く」技能については、５年前半でアルファベットの読み書き、語彙、語句の読みと書き写し、５年後半から６年では、文の読み、書き写しという内容で構成され、児童の意欲を高める構成になっている。○　言語の使用場面は、自己紹介、道案内、食べ物の注文、おすすめの国紹介、憧れの人紹介、日本の紹介、小学校の思い出紹介、将来の夢の発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| 三省堂 | 目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。○　「HOP」「STEP」「JUMP」という段階の中で、多くの表現や語彙に触れ、「聞く」「話す」活動を豊富に取り扱い、段階的に「読む」「書く」活動を行うなど、児童の意欲を高める構成になっている。○　言語の使用場面は、自己紹介、友だちや家族の紹介、道案内、行きたい国の発表、日本のおすすめの場所紹介、夏休みの思い出発表、小学校の思い出紹介、将来の夢の発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| 教　出 | 目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。○　「Let’s Watch」や「Let’s Listen」で聞く活動、「Activity」で基本的なやり取りを行い、「Final Activity」で発表や発展的なやり取りとともに、「読む」「書く」活動も取り入れることで、児童の意欲を高める構成になっている。○　言語の使用場面は、自己紹介、夢の時間割の発表、行ってみたい都道府県の発表、友だちになってみたい人の紹介、好きな日本の文化の紹介、行きたい国の発表、小学校の思い出紹介、中学校でしたいことの発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| 光　村 | 目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、短時間学習での扱いも例示されている。○　「Hop!」「Step1」「Step2」「Jump!」という構成になっており、聞く活動から始まり、話す活動を経て、徐々に読む・書く活動へと段階的に学習を進めることができ、児童の意欲を高める構成になっている。○　言語の使用場面は、自己紹介、オリジナルの時間割の発表、行きたい国の紹介、料理の注文、道案内、日本の文化の紹介、世界で活躍する人の紹介、中学校でしたいことの発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| 啓林館 | 目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、短時間学習での扱いも例示されている。○　単元のはじめの「聞く」活動で多くの語彙や表現に触れ、その内容を「Think and Say」や「Say and Write」、「Activity」で伝えることで、段階的に学習を進めることができ、児童の意欲を高める構成になっている。○　言語の使用場面は、自己紹介、学校生活や教科、料理の注文、道案内、日本の文化の紹介、夏休みの思い出発表、将来の夢の発表、中学校でしたいことの発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| ５創意工夫 | 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。○　ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について○　外国語活動の学習内容の取り扱われ方について |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東　書 | 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。○　各単元の「Let’s Try」、単元末にある「Enjoy　Communication」や「Check Your Steps」で、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、相手を意識した聞き方・話し方ができる学習形態となるよう工夫されている。○　各単元の「Starting Out」で、外国語活動で慣れ親しんだ語彙や表現をくり返し登場させ、振り返ることができるよう工夫されている。 |
| 開隆堂 | 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。○　各単元の「Let’s Play」などでペア・ワークやグループ・ワークが設定され、児童どうしの活動を促し、学級づくりに活かせるよう工夫されている。○　５年冒頭の「Spring Festival」で、外国語活動で学習した語彙や表現を振り返ることができるよう工夫されている。 |
| 学　図 | 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。○　各単元の「Use and Check」などにおいて、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、児童どうしの学び合いを促すよう工夫されている。○　５・６年冒頭の「Pre-lesson」で、アルファベットの確認や外国語活動で学習した語彙や表現を振り返ることができるよう工夫されている。 |
| 三省堂 | 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。○　「Talk to Friends」「Write＆Talk」などで、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、活動しながら学べるよう工夫されている。○　５年冒頭の「英語で言えるかな」で、外国語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を振り返ることができるよう工夫されている。 |
| 教　出 | 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。○　各単元の「Activity」や「Final Activity」で、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、実際にコミュニケーション活動をする機会を持てるよう工夫されている。○　５・６年冒頭の「Let’s Start Together」で、アルファベットやものの名前を中心に、外国語活動で学んだことを振り返ることができるよう工夫されている。 |
| 光　村 | 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。○　各単元の「Let’s Play」で、学習内容に関連したゲームやアクティビティがあり、単元末の「You can do it!」では慣れ親しんだ表現を使ったペア・ワークやグループ・ワークが設定され、活動しながら学べるよう工夫されている。○　５・６年冒頭の「Let’s start」で、外国語活動で学んだ語彙や表現を振り返ることができるよう工夫されている。 |
| 啓林館 | 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。○　各単元の「Activity」で、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、学んだことを活かすやりとりや発表活動ができるよう工夫されている。○　５年冒頭の「Pre Unit」で、ローマ字や好きなもののやりとりの語彙や表現など、外国語活動で学習した内容を振り返ることができるよう工夫されている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| ６補充的な学　習・発展的な学　習． | 学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを実際のコミュニケーションに活用することができるよう配慮されているか。○　資料・活動例など○　中学校への接続を意識した内容など |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東　書 | ○　各単元の「Enjoy Communication」は、英語を実際に使う場面を想定してコミュニケーションカードを手作りしたり、ことばの働きについて話し合ったりして、実際のコミュニケーションに活用することができる。また、「Check Your Steps」では、学んだ英語を振り返ることができる。なお、ＱＲコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。○　６年の巻末で、文構造への気付きを促す内容を取り入れている。また、６年のUnit7～8は「中学校への扉を開けよう」というテーマで、小学校生活を振り返ったり、中学校生活や将来について考えたりする活動を取り入れた内容になっている。 |
| 開隆堂 | ○　各単元の最後に、その単元の内容を振り返るコーナーがあり、各項目について「できた」～「とてもよくできた」までの４段階で、各自で色を塗り振り返ることができる。また、「Let’s Try」や「Let’s Play」で、インタビューや話し合い、発表など実際のコミュニケーションに活用することができる。なお、ＱＲコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。○　６年の巻末で、中学校でつまずきやすい項目を取りあげている。また、６年のUnit6～8で小学校生活を振り返ったり、将来の夢や中学校でしたいことを発表したりするよう構成されており、中学校への接続を意識した内容になっている。 |
| 学　図 | ○　各単元の最後に「Check Time」があり、各単元を振り返って各項目に対して「よくできた」「できた」「がんばる」のいずれかにチェックしたり、感想やこれからの目標を書いたりできる。また、「Project Time」では、友だちと意見を交わしたり、提示用シートを作って発表したりして実際のコミュニケーションに活用することができる。なお、ＱＲコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。○　中学校で学習する文法を歌の中で覚えることができる。また、６年のLesson8で将来の夢、Lesson10では中学校でしたいことについて伝えたり尋ね合ったりするように設定され、中学校への接続を意識した内容になっている。 |
| 三省堂 | ○　複数の単元を学習した後、「Jump」に「まとめとふりかえり」のコーナーが設定されており、学習した内容を振り返ることができる。また、同じく「Jump」の中の「Presentation」では、学んだことを友だちに伝えたり全体に発表したりして、実際のコミュニケーションに活用することができる。なお、ＱＲコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。○　６年のPresentation2で小学校の思い出、Lesson6とPresentation3で将来の夢について伝える場面があり、その際に中学校についても意識することが考えられる内容になっている。 |
| 教　出 | ○　各単元の最後に、内容を振り返るコーナーがあり、各項目について「よくできた」「できた」「もう少し」の３段階で各自振り返ることができる。また、「Final Activity」では、友だちと尋ね合ったり、自分の意見を発表したりして、学習した内容を実際のコミュニケーションに活用することができる。なお、「まなびリンク」により、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。○　６年のLesson7～9で文構造への気付きを促す活動を設けている。また、６年のLesson7～9で小学校の思い出、将来の夢、中学校の部活動や学校行事について発表したり尋ねあったりする活動があり、中学校への接続を意識した内容になっている。 |
| 光　村 | ○　各単元の最後に振り返りのコーナーがあり、その単元の内容を理解できたかを各自で振り返ることができる。また、「Let’s Try」や「You can do it!」では、友だちと尋ね合ったり、自分の意見を発表したりして、学習した内容を実際のコミュニケーションに活用することができる。なお、ＱＲコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。○　６年巻末の「中学校に向けて英語の学習を続けていこう」で、中学校での学習に役立つ内容が取りあげられている。また、６年のUnit7～9で、小学校の思い出、将来の夢、中学校で入りたい部活動やしたいことを発表する場面が設定されており、中学校への接続を意識した内容になっている。 |
| 啓林館 | ○　各単元の最後の「Looking Back」のコーナーで、既習事項が定着したかどうかチェックしたり、感想や今後の目標を書いたりすることで、各自で振り返ることができる。また、「Activity」では、友だちと尋ね合ったり、自分の意見を発表したりして、学習した内容を実際のコミュニケーションに活用することができる。なお、ＱＲコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。○　６年のUnit6～8で、小学校の思い出、将来の夢、中学校で入りたい部活動やしたいことを発表する場面が設定されており、中学校への接続を意識した内容になっている。 |